



岡山さんぽメールマガジン 第 142 号 11 月 1 日 (金)



1. 相談員便り (勝田吉彰相談員)
2. 研修会のご案内
3. 編集後記

«事業者、医療関係者、産業医向け研修会»

「治療と仕事の両立支援セミナー」を開催します！！

※日本医師会認定産業医 生涯研修 専門 2 単位 (申請中)

日時：12/5 (木) 13:30~16:15 予定 (13:00 ~ 受付開始)

会場：イオンモール岡山 5F おかやま未来ホール

備考：募集人数 100 名、入場無料。事業者・医療関係者・産業医等どなたでも参加可能です。

・基調講演

『治療と仕事の両立支援』はなぜ必要か (豊田章宏氏)

・取組事例紹介

株式会社山陽マルナカ

株式会社ショウワコーポレーション

岡山大学病院、岡山労災病院

・岡山産業保健総合支援センターからのご案内

受講申込はこちら(治療と仕事の両立支援ナビ)

<https://chiryoutoshigoto.mhlw.go.jp/symposium/2019/>

1. 相談員便り (勝田吉彰相談員)

外国人労働者の動向

これからの産業保健現場に大きな影響を及ぼすニュースとして令和元年早々に耳目を集めたのが、入国管理法改正と、それともなう外国人労働者の大幅増の報道でした。入国管理法を改正し新しい在留資格、特定技能 1 号・特定技能 2 号を新設するもので 1)、国会論戦のなかで、今後 34.5 万人の外国人労働者が増えるという試算も政府答弁から出てきました 2)。その影響は確かに、東南アジアの現場で確認することが出来ます。

私は別テーマ (海外勤務者のメンタルヘルス関連) で研究費をいただき、毎年 2 回ずつミャンマーに通っています。前回は 9 月の訪問の際に、技能実習生送出し機関でもある Yellow Link 社に立ち寄り聞いてみました。日本語学校も運営する同社とは、以前、ヤンゴンの学会で招待講演を依頼された際に、冒頭の“つかみ”をミャンマー語で話すということを企て、そのミャンマー語訳と

発音レッスンをお願いして以来のお付き合いです。その後新たな建物を拡張して、日本に向かおうとする人々相手のビジネスが盛況であることを実感させてくれます。代表曰く「（日本に行く手段として）留学生はもうダメだ。許可がおりなくなった。これからは技能実習生だ。特定技能だ」と鼻息荒く、ぐんと増えた日本語学校の生徒さんともども、将来の日本へ向かう奔流が実感できました。

さて、このような光景がいまや東南アジアのあちこちで展開しているわけですが、その傾向を厚労省統計で見てみましょう（「外国人雇用状況」の届出状況 概要版 平成 30 年 10 月末現在）。特に増加率が高いのは、【1】ベトナム【2】インドネシア【3】ネパールの順です。

もうひとつ、東洋経済社の DB で（これが最近「日本企業が進出した」外国リストだ）、日系企業の進出数増加率が高い（＝関係緊密化が急ピッチで、やがてはインバウンド外国人労働者数増加につながる）国は、【1】ミャンマー 【2】スリランカ 【3】バングラデッシュ の順です。では、こうした国々の人々が産業保健現場に“最大 34.5 万人”増えてきたら何が起こるのでしょうか。ちょっと近似した経験から考察してみました。

私は昨年、2018 年春から、大阪の外資系企業で嘱託産業医を担当しています。YBM Japan 社、体験型英語教育施設を運営し、航空機内・カウンター・郵便局・レストラン・劇場・商店・大統領執務室・TV スタジオ・ジム・アトリエ etc を模したモックアップの中でネイティブの講師たちから活きた英語を学べるというのですが、その従業員にはアングロサクソン系・アフロ系・アジア系含め常時 25 名前後の外国人講師が含まれ、彼らには英語対応をおこなっています。同社は産業医が初めて選任となり、筆者が初代です。最初に面食らうのが、健診をおこなえば健診会社から返ってくる結果は日本語オンリー、そこに見出せるアルファベットは GOT、GPT、γGTP、LDL、HDL…ぐらいで当然、漢字まで読めなければ理解不能です。判定は日本基準ですから、腹囲 85 センチをちょっと超えたら、見上げる大男にも“要指導”が。ひとりずつ産業医面談をおこない、各項目の意味から英語で丁寧に解説して納得を得ています。さらに有所見者の医療機関の紹介まで含めて、とりあえず何とかなっているのですが、しかし、ちょっと想像力を働かせてみれば様々な“日本の産業保健現場の未来像”が浮かびます。これが 25 人じゃなくて 250 人だったら、2500 人だったらどうなるか。英語講師として採用された、きれいなネイティブイングリッシュじゃなくてベトナム語やインドネシア語しか解さないとしたらどうなるか。食事や運動指導には、米国糖尿病協会の HP が、高血糖のみならず脂質異常などにも使えてとても重宝しているのですが、ミャンマー語やネパール語しか解さなければどうなるか。そこに浮かぶのは「絶望的なインフラ不足」です。こうした、健診やストレスチェックの実施、フィードバック、有所見者のフォローアップに向けたツールづくり、次の研究テーマに出来るかなあと考えているこの頃です。

この問題は TBS ラジオの出演でも問題提起させていただいており、ラジオクラウドに収録されておりますのでお聴きいただけます。

荻上チキの SS22「外国人労働者の受け入れ拡大がスタート。「これからの日本社会に必要な取り組みとは？」

<https://www.tbsradio.jp/355437>

また、現時点で外国人労働者への保健指導に使えるツールを紹介しておきます。

米国糖尿病協会（American Diabetic Association）の HP：英語

食事指導 <https://www.diabetes.org/nutrition/meal-planning>

運動 <https://www.diabetes.org/fitness>

中国健康報：中国語

尋医問薬 <http://www.jkb.com.cn/xunyiwenyao/>

主要疾患の解説あり。

参考文献：

1) 外務省 HP「入管法改正による新たな在留資格の創設 特定技能」

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/fna/ssw/jp/overview/index.html>

2) 外国人労働者受け入れ、5年で35万人 政府が積算根拠

<https://www.asahi.com/articles/ASLCJ4JX8LCJUTFK00Q.html>

«勝田相談員が講師を務める研修会»

●12/14(土)15:00～17:30

『産業医研修 ※対象：産業医(更新1単位、専門1.5単位)』

(1) 働き方改革関連法に基づく労働安全衛生法の一部改正

(2) ストレスチェック制度のあらましと長時間労働者、高ストレス者に対する面接指導

●12/16(月)10:00～11:30

『これから話題の感染症～インフルエンザを含めて～』

→研修会の詳細、参加申込はこちら

<https://okayamas.johas.go.jp/01-ke.html>

2. 研修会のご案内

☆今月開催予定の研修会☆

11/05(火)13:30～15:00『心の病気について』

11/07(木)14:00～16:00『カウンセリングでの事例検討』

11/12(火)14:00～15:30『職場のメンタルヘルス対策-基礎編-』

11/15(金)14:00～15:30

『一生美味しくアルコールを飲みましょう』

11/16(土)14:30～16:30

『産業医研修（治療と仕事の両立） ■ 専門2単位 ■』

【岡山県生涯学習センター】対象:産業医

11/21(木)14:00～16:00

『職域における健康診断と事後措置について』

11/27(水)14:30～16:00

『発達障害とパーソナリティ障害について』

11/28(木)14:00～15:30『騒音性難聴について』

——pick up! ——

11/15(金)14:00～15:30

『一生美味しくアルコールを飲みましょう』

★忘年会シーズンを前に、お酒に飲まれないように、そして楽しくお酒を飲む方法について考えてみましょう。

11/28(木)14:00～15:30『騒音性難聴について』

★騒音性難聴について 事業場の衛生管理者等を対象として医学的なメカニズム、予防などについて解説します。

12月・1月の研修会も参加申込受付中！！

研修会の詳細、参加申込はこちら

<https://okayamas.johas.go.jp/01-ke.html>

3. 編集後記

10月5日（土）おかやま西川原プラザにて「令和元年度両立支援コーディネーター基礎研修」を開催いたしました。治療と仕事の両立支援を支えていただける「両立支援コーディネーター」を49名養成いたしました。従業員が「がん」「脳卒中」等になっても、安心して治療を続けながら仕事をできる職場にしないとけません。岡山産業保健総合支援センターでは、保健師の資格を持つ産業保健専門職や社会保険労務士の資格を持つ両立支援促進員が皆様の職場に訪問し、労務管理等職場の体制づくりや両立支援の進め方等について無料で相談を受けます。詳しくは岡山産業保健総合支援センターホームページ「治療と仕事の両立」コンテンツを御覧いただきまして、申込をお待ちしております。

今回の第143号は12月初旬に配信予定です。